

## 平成 25 年度第 1 回浦安市文化財審議会議事録（議事要旨）

- 1 **開催日時** 平成 25 年 5 月 15 日（水） 午前 10 時～12 時
- 2 **開催場所** 郷土博物館 視聴覚室
- 3 **出席者**  
（委員）平野委員長、平野（敏）副委員長、杉山委員、森田委員、丸山（光）委員、丸山（純）委員、吉田委員  
（事務局）加藤生涯学習部次長、飯塚館長、斎藤主幹、島村、林（記）  
（傍聴人）なし
- 4 **議 事**
  - (1) 平成 24 年度 浦安市文化財審議会の報告について
  - (2) 平成 25 年度 浦安市文化財審議会の年間計画について
  - (3) 平成 24 年度 郷土博物館の利用状況報告について
  - (4) 平成 24 年度 文化財住宅の利用状況報告について
  - (5) 平成 25 年度 郷土博物館の年間計画について
  - (6) 平成 25 年度 開催イベント以外の年間計画について
  - (7) その他

### 5 会議経過

会議に先立ち、人事異動に伴う職員紹介（遠山直樹主査）を行った。開会后、平野委員長、加藤生涯学習部次長があいさつを行った。

- (1) 平成 24 年度 浦安市文化財審議会の報告について
- (2) 平成 25 年度 浦安市文化財審議会の年間計画について  
配布資料に基づき、事務局より説明した。  
質疑・応答はなく、承認された。

- (3) 平成 24 年度 郷土博物館の利用状況報告について  
配布資料に基づき、事務局より説明した。  
主な質疑・応答については、下記のとおり。

（委員） 昨年度、初めて 5 年生の水産業の授業で博物館を利用したとのことだが、どのような内容の授業だったのか。

（事務局） 昨年度、博物館から学校に戻った教員の内山が 5 年生の担任になった。5 年生の社会科「産業」のところの導入で、かつての浦安の水産業を学び、1 次産業から 3 次産業までを理解させる授業を行ったものである。

（委員） とてもいいことだと思う。より広い視点で博物館を学習に役立ててほしい。博学連携の取り組みの資料のなかには、大学生の利用が入っていないようだが、千葉大学でも留学生を連れて博物館を毎年利用させてもらっている。大学生の利用も何件かあることと思うので、集計に入れるのがよいと思う。

(4) 平成 24 年度 文化財住宅の利用状況報告について

配布資料をもとに、事務局より説明した。  
質疑・応答はなく、承認された。

※ 文化財住宅についての内容の流れから、議事の順序を変え、先に議題(6)について報告を行った。

(6) 平成 25 年度 開催イベント以外の年間計画について

配布資料をもとに、事務局より説明した。  
主な質疑・応答については、下記のとおり。

(委 員) 旧宇田川家住宅の外壁工事について、車椅子で庭側から入れるようなアプローチをつくるとのことだが、建物本体への影響はあるのか。

(事務局) 今回、建物について手をいれることはない。

(委 員) 障がいのある方々に利用していただけるようにすることは大切であるが、文化財住宅の建物については、やはり「人的介助」できるようにすることで対応するという考え方がよい。昔の家は、当然車椅子の利用を前提には造られていないのだから、車椅子利用を考えると建物そのものを改修するしかなくなってしまう。文化財住宅については、あくまで建物のオーセンティシティ(本物としての価値)を守ることが前提であるので、必要などときには介助者を手当するという対応ができるようにしておくという考え方でよい。

(委 員) 旧宇田川家住宅の説明板は、現在の位置のままつくるのか。車で通る際、説明板を読む人たちの危険を感じるものがたびたびある。電柱とフラワーボックスの間に説明の表示板があり、あそこで人が群がっていると、車の通行がとてもしにくい。できれば右端の危なくない位置につくり直した方がよい。

(事務局) 一昨年度、委員の皆様にも現地視察をしていただいた。右側の公園部分に移動してしまうと目立たなくなってしまうという危惧もあり、事務局としても迷っているところもある。

(委 員) 見ている人は、車を気にしていないと思う。建物を説明する場所として、見る人にとって見やすくわかりやすいのは、今の場所だと思う。

(委 員) やなぎ道路からの新しい道が開通するようになると、フラワー通りの流れが変わり、車も今よりも多くなるのではないかと思うので、やはり危ないのではないか。

(委 員) 事故が起きてからでは遅いので、安全なところへ移動させた方がよいと思う。

(委 員) 右側の広場の奥でも、いいのではないか。グループで行っても見やすいし、引率者も安心して連れていくことができる。

(事務局) 今回の表示板修復は、文章が書かれている板のみの取り換えで、脚部分は現在のものを使用する。場所を移動するとなると、工事費がかかることになり、その予算は確保していない。予算的なこともあるので、この件については検討させていただきたい。

(委 員) 表示板のことではないのだが、先日テレビで旧宇田川家が紹介されていたときに、管理している女性が「2階の天井が低いのは、攻められたと

きに刀を振り回すことができないようになっている」というような話をしていた。それは、本当なのか？

(委員) それは、間違い。博物館のたばこ屋と比較するとわかりやすいと思うが、旧宇田川住宅の2階は、座敷の構えにはなっているものの未発達な状態でまだ住居としては整っていない、ということの表れである。

非常勤職員の方も変わってきていると思うので、改めて正しいレクチャーを行う必要もでてくるだろう。必要があれば、(レクチャーについて)協力したい。

(事務局) 一ヶ月に一回、施設利用振興公社との連絡調整会議があるので、非常勤が正しい説明ができるよう、公社へ指導をお願いする。

(委員) 博物館の民家の屋根瓦を修復するとのことだが、具体的にはどの家屋なのか？

(事務局) 茅葺きの三軒長屋を除き、健康センター側の風呂屋などファザードを含めたすべての民家で行う。全面的に行うと屋外展示場に来館者を入れられなくなってしまうため、2棟くらいずつに分けて足場を組み、順番に進めていく予定。

(委員) 針金が腐食しているところもあるとの話だったが、銅の針金ではないのか。

(事務局) 一部、銅でないところもあったようだ。

(委員) 本来、銅でないといけないもの。銅でないというのは、仕様が違っていたか、手抜き工事かである。鉄は錆びて太ってしまい、瓦を割ってしまうことがあるので、鉄は使ってはいけないことになっている。今回の改修では、しっかりした仕様にに基づき、きちんとメンテナンスすること。

(委員) 子どもたちに、瓦の葺き替えをみせるちょうどよい機会になる。昔と同じやり方で行うのか。

(事務局) 材料の違いもあり、昔と全く同じというわけにはいかないが、安全を第一に考え、文化財住宅としての価値を壊さないよう行う。

啓蒙については、茅葺き屋根の修復時にも行ったように、説明会などを開催したりする予定である。

(委員) 年明けに行うということであるが、左官工事も含まれることと思う。左官の仕事は冬は適していないはずだが、なぜ冬場に行うのか。

(事務局) このような大きな工事は、市役所営繕課の指導のもとに行うことになっている。当初は、夏休みに工事をしたいと考えていたが、市役所全体の工事計画のなかで夏休みは学校関係の工事が集中することと、営繕課の業務の都合上、1月からと決まった。

(委員) 冬に左官仕事を行うのはよくないことがはっきりしているのだから、なるべく長期に渡ってもつよう修復するのであれば、時期を調整するのがよいと思う。

(事務局) 再度、営繕課と調整を行う。

(5) 平成 24 年度 郷土博物館の年間計画について

「平成 24 年度 博物館カレンダー」と「もやいの学校プログラム」をもとに、事務局より説明した。

主な質疑・応答は、下記のとおり。

(委員) 浦安は、貝と海苔が多いのは事実だが、魚をとる漁師もいた。遊船ではなく、漁として釣りをしていた方もいるので、魚をとる漁業について調べたり、とりあげることも必要なのではないか。

(事務局) 「最後の漁師が語る」という講座では、漁師の方をゲストにお招きしく魚をとる各種の漁法について、それぞれお話を伺うという内容で行った。

3月末に、「もやいの学校」の最後の講座として、昭和 51 年度に日大芸術学部が卒業制作作品として制作したドキュメンタリー映画の上映会を開催した。埋め立て工事が行われているなか、浦安～行徳で行われている漁業を取材した映像である。

その映画上映会には、100 人もの参加者が集まった。特に震災以降、漁師町時代のことに興味をもつ人たちが増えてきているようだ。

(7) その他

◆ 清瀧弁財天境内 大正 6 年大津波(高潮)犠牲者供養塔についての情報報告

昭和 46 年に撮影された清瀧弁財天の写真に供養塔が写っていたため、この写真コピーを配布し、報告を行った。この後、土地改良事業が行われ、弁財天本堂が 54 年に新築されたときに、供養塔を含め石造物を移動させて、今の位置に動かしたものと思われることを説明した。

◆ 史跡表示板にかわる案内システムについて、委員からの提案

(委員) 先日奈良に行った際、神社仏閣などを説明するスマートフォンを使ったシステムがあった。QR コードにスマホをあてると、解説が見られる、あるいは聴ける、というものである。こういうシステムであれば、新しくわかった情報などを簡単に追記していくこともでき、費用もさほどかからない。文化財や史跡だけでなく、いろいろなものに対する説明をつくることができるので、街歩きが楽しいものになると思う。将来的には、そのような方向で考えるのがよいのではないか。

(事務局) 館内の展示解説を PHS で聞ける「音声ガイド」というシステムを今後どう更新したらよいかということについて、展示業者などからの情報を集めているところである。自分のスマートフォンを使って、音声で展示解説を聞く、というシステムを小田原の博物館が採用したと聞いている。館内のガイドから市内へ広げるといっても、今後検討していきたい。

◆ 館内でインターネットを使える環境にすることについて、委員からの提案

(委員) 今は、館内でネットが使えない状態のようだが、是非使えるようにしてほしい。インターネットで館のホームページなどを見ながら、あるいは他と比較しながら、屋外展示場を楽しめるととてもよいと思う。認証システムにかなりかかると思うが、機械的には Wi-Fi(ワイファイ・電波の受信タ

ーミナル設備)のルータを買うだけで、さほど費用もかからないのではないか。

(事務局) 公民館にはすでに Wi-Fi が設置されているので、博物館でも検討していきたい。

◆ 次回の会議

次回、第2回浦安市文化財審議会は、7月17日(水)に開催する予定である。

以上をもって、平成25年度第1回浦安市文化財審議会は、閉会した。